

等云云。仏既に宝塔に入りて二仏座を並べ、分身来集し、地涌を召し出して、肝要を取りて末代に當てて
 五字を授与したまうこと、当世異義有るべからず。

疑いて云く、今世に此の法を流布せんには、先相之有るや。答えて曰く、法花経に「如是相、乃至、本
 末究竟等」云云。天台云く、「蜘蛛掛りて喜び事来り、鴉鵲鳴きて客人来る。小事すら猶以て是の如

し。何に況や大事をや」意を。取る。問うて曰く、若し爾らば、其の相之有るや。答えて曰く、去ぬる正嘉年中

の大地震・文永の大彗星、其より已後今に種々の大なる天変・地天あり、此等は此の先相なり。仁王経

の七難・二十九難・無量の難、金光明経・大集経・守護経・薬師経等の諸経に挙ぐる所の諸難皆之有り。

但無き所は二、三、四、五の日の出ずる大難なり。而るを今年佐渡の国の土民、口に云く、今年正月廿三

日申の時に、西方に二の日出現す。或は云く、三の日出現す等云云。二月五日には東方に明星二つ並び出

ず。其の間は三寸計り等云云。此の大難は日本国先代にも未だ之有らざるか。最勝王経の王法正論品

に云く、「変化の流星墮ち、二の日俱時に出現で、他方の怨賊来りて国人喪乱に遭う」等云云。首楞嚴経に

云く、「或は二の日を見し、或は兩の月を見す」等。薬師経に云く、「日月薄蝕の難」等云云。金光明経に

云く、「彗星数出で、兩の日並び現じ、薄蝕恒無し」。大集経に云く、「仏法実を隠没せば、乃至、日

月明を現ぜず」等。仁王経に云く、「日月度を失い、時節返逆し、或は赤日出で、黒日出で、二、三、

四、五の日出で、或は日蝕して光無く、或は日輪一重、二、三、四、五重輪現る」等云云。此の日月等

の難は七難・二十九難・無量の諸難の中に第一の大悪難なり。